

第24回全日本トライアスロン宮古島大会出場記 2008 4/20 SUN

「大会テーマ 海・風・太陽 熱き思い 君を待つ」

浜口 辰雄

今年も無事宮古島の地に、無事立つことが出来た。今回で初出場から8年目に成った。宮古島大会は私の最も大きなイベントの一つとしてすっかり定着した。日常のあらゆる行動が、宮古島大会への原動力になると信じ、良いと思われる事は実行した。寒い冬も霜焼けに悩まされながら何とか乗り切ってきた。



今年は風邪など引かず順調だったが、大会1週間前の暴飲暴食で胃の調子を崩した。大変な事に成ったと悔やんだが後の祭りになった。

開会式のパーティでもビールは少しで我慢したが、食べる方は、競い合う様に料理に飛び付き、貪る様に食べた。少しの我慢もできず、後は胃薬頼りになった。アスリートとしては完全に失格だと思いながらも、人間だものと勝手な自分に甘えた。

今大会は多くの楽しみがあった。一つは友人との再会、3年振りに韓国の孫さん、メールのやり取りはしているが1年振りの米国のオスカーさん、それに競技記録として11時間以内等々があった。

両人には開会式場で再会し喜びを分かち合った。彼らに土産として、お茶と酒をプレゼントしたら、大変喜んでくれて嬉しかった。

今年はトラ友のSさんの計らいでスイム会場へ歩いて行けるホテルが取れた。Sさんのクラブの友達Kさんの3人が相部屋になり行動を共にした。

大会前日の土曜はスイム会場で海の感触を確かめた。やはりウエットスーツ無しでは肌寒かった。昼はオスカーと二人でホテルのランチを食べた。昨年、宮古大会後、習い始めた英会話で多少話が出来たが、突っ込んだ話が出来ないのでじれったかった。

午後はバイクの預託をし、バイク、スイム、ランの袋にウエア及び用具を詰めた。その他スベシャルドリンクやエネルギージェルも準備した。

大会当日3時半に起きた。4時前食事、胃の負担を考えよく噛んだ。其の後バイクに積む握り飯を3個作った。予定通り5時にホテルを出た。時間に余裕があったが気持ちは急いた。辺りは未だ真っ暗だった。少しナーバスに成っていたが、会場のホテルの明かりを見ると自然に薄れた。ホテル前に着くと大勢の選手が準備に忙しく動き回っていた。3人はここで別れ夫々の準備に入った。全ての準備を終え最後にウエットスーツを着用しビーチに立った。スタートを待っていると、孫さんが声を掛けてきた。一緒に写真を撮ろうと言う事だ、近くに写真屋が居なかったので直ぐ別れた。

今年から満潮時にスタート出来る様、30分繰り上がり7時スタートになった。潮の流れが少ない分泳ぎに対しては良い条件になった。

スタート時間が迫ってきた。スタートを努める小泉元首相が小型船に乗って登場。元首相に注目が集まり、ウオーと言う驚きの様な歓声が起こった。いやがうえにも大会の雰囲気盛り上がってきた。

ピストルの合図で大集団が一斉に泳ぎ始めた。私は何時もの様にコースの左端側から第一コーナを目指した。直ぐに水中プロレスに巻き込まれ、リズムを作る所で無かったが、手を止めること無くかき続けた。最初のコーナは、無駄なエネルギーを使いながらも、無我夢中で通過した。この辺りから各人のポジションが決まり始め、私もやっと自分のリズムを取り戻して次の1.7キロ地点の2番目コーナを目指した。途中波酔いのためか気分が悪くなり苦しい思いをしたが自分のペースを守り調子を戻した。2番目のコーナを回ってフィニッシュ迄は並行して泳ぐ選手と顔を見合わせながら泳いだり、小競り合いを繰り返しながら砂浜に上陸した。時計は56分台を表示していた。60分を目標にしていたので、気分を良くして、バイク置き場に向かった。



第24回 全日本トライアスロン宮古島大会 2008年4月20日

向かった。

今回初めてバイクに乗る前にソックスをはいた（何時もはランの前）バイクシューズに足がフィットして快適だった。バイクのセット位置が、通路側だったのも幸いし、トランジットが容易に出来た。

出発して直ぐのホテル前を走行中、声をする方を一瞬振り向くとあの髪の小泉元首相が応援してくれていた。一瞬の出来事だったが急に親近感を覚えた。

胸焼けを感じたが、握り飯をほおばり最初のエネルギーを補給した。バイクをこぐ足は重かった。軽いギアをぐるぐる回す、だが足に大きな負荷が掛かっている様で筋肉が痛い感じだった。中々調子に乗れなかった。スイムで体が冷えた為か？早くこの状態から脱したかった。池間島を回ってからやっと調子が出てきた。

レース中思いがけない事が起こった。40k過ぎだった。小用を足す為街路樹にバイクを立て掛けた時だった。ヘルメットの間隙に街路樹の枯れ枝が刺さり、振り向き様、ヘルメットに引っ掛った枝で、頭を引っ張られた。誰かと、一瞬驚いた自分がおかしく、笑ってしまった。

東平安名崎付近では、知り合いのKu氏やKa氏と、抜きつ抜かれつのデッドヒートを演じたが、来間大橋手前で千切れてしまった。池間島に向かう2周目は疲れと腰痛で集団にも付けず孤独な戦いを強いられた。

狩俣集落西過ぎで孫氏を抜いた。声を掛けたが返事無し、相当疲れている様だった。



第24回 全日本トライアスロン宮古島大会

天候は曇りで暑さから逃れたが、何時もながら風には参った。どこを走っても風に向かっていく様で追い風を受けて気持ち良く漕いだ記憶が無かった。(地元の方は、大した風では無いと言っていた)辛く長かったバイクパートも漸くフィニッシュを迎えた。

6時間30分を経過し、ランをスタートした。マラソンを4時間30分で走れば、丁度11時間、何となく11時間を切れそうな気がした。バイクの後半からランへスムーズに移れるか心配していたが意外に軽く走れた。しかし軽いペースが上がらない変な感じで歩を進めた。最初の5キロは31分台で通過した。このペースを維持すれば目標に届くなと計算したがペースは落ちる一方だった。

日差しは弱かったが暑かった。エイドでは必ずスポンジを受け取り帽子を濡らし、頭、顔や足を冷やした。濡らした帽子や頭は、次のエイド迄には乾いてしまい、オーバヒート気味になった。

その他エイドではコーラ、オレンジ、そしてレーズンクラッカーを主に摂った。胸焼けは相変わらず続いていたが、飲んだり食べる事に支障が無かった。

15キロ付近だったか、女子大生Yさん(名前入りウエアで分かる)に追いつかれ並走した。其の彼女を、TVカメラが執拗に追いかけていた。障害者がトライアスロンに挑戦するドキュメンタリでも作るのかと思い、邪魔かなと思ったが並んで走った。其のうち機を見て、彼女にカメラが追いかけている理由を聞いてみた。本大会最年少(21歳)である事を取り上げている様であった。この調子だと何とか11時間を切れそうだと話かけると、彼女もぜひ切りたいと応えていた。



第24回 全日本トライアスロン宮古島大会 2008年4月20日

折り返し点を通過。昨年より10分遅い、サブ11は段々遠ざかって行った。背後からIさんの声援が聞こえた。手を挙げて応えた。30キロ付近で力尽き彼女が先行した。肩や首筋が痛くなってきた。走り始めから、肩の脱力に努めていたが、知らず知らずのうちに、力

が入っていたのだろう。

沿道の応援は、何時もながら励まされる、特にナンバカードの番号から名前を探し、名前を呼んで呉れるのは本当にうれしい。もう一つ励まされるのは、制限時間に帰ることが難しそうなランナーだ。少しの可能性を信じて、折り返し点に向かう姿には心を打たれる。皆必死で頑張っているのだ。

競技場の方向から、アナウンスの声が聞こえる所まで来た。新たな力が湧いてきた。ゴールできる喜びがこみ上げ、



第24回 全日本トライアスロン宮古島大会 2008年4月20日

応援にも笑顔で応えられた。

競技場入り口で大声援を受け、熱いものが込み上げてきた。競技場内は少しペースアップをしてテープを切った。本当に幸せな一瞬であった。皆さんありがとうございました。



タイムは11時間23分、11時間を切る事が出来なかった。しかし8年振りに、僅かだったが自己記録を更新した。新しい練習方法を教えてもらったAさんや練習仲間のお陰だと思う。

自分には未だ未開の部分があり、さらに発展できる可能性が見えた大会だった。

翌日孫さんやオスカーに別れを告げた。その後、私はS氏と石垣島と西表島を周った。そして長かった宮古島への旅を終えた。

以上